

概 要

概要

沿革

幕政の頃我が大和国は郡山、高取、柳本、櫛羅、芝村、小泉、柳生、田原本の八藩が分封管治し、和歌山、津、久居、大多喜 壬生の五藩の分邑、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家等に分属してゐた。明治元年五月高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家、管領等を奉還し同年五月奈良縣を置き之を合せ管轄し、同二年六月各藩版籍を奉還し同三年二月奈良縣の一部を分つて五條縣を、同四年七月藩を廢して縣を置き、郡山縣、高取縣、柳本縣、櫛羅縣、芝村縣、小泉縣、柳生縣、田原本縣となつたが、同年十一月各縣を廢して更に奈良縣を設け大和全國を統轄するやうになつた。明治九年四月奈良縣を廢し堺縣に併合し更に明治十四年二月堺縣は大阪府に編入せられたため、大阪府に属したが明治二十年十一月十日大阪府を割いて、再び奈良縣を置き大和全國を統轄し以つて今日に至つてゐる。明治三十四年四月添上郡外十四郡を合併して十郡とし、同三十一年二月添上郡奈良町に市制施行、大正十二年郡制廢止、現在は一市十郡百四十六ヶ町村を管轄してゐる。

土地

位置 本縣は畿内の東南部に位し一市十郡二十九町百二十村を管轄してゐる。東は三重縣に境し西は大阪府に隣り南は和歌山縣に境し北は京都府に接し、東經135度33分より起つて136度12分に至り北緯33度52分より34度47分に達してゐる。

地勢 南北に長く東西に狭く山岳は四面を圍繞して北方纔に開通してゐるのみである。東は國見山、高見山、大台ヶ原山、備後山等の群峰を隔てて三重和歌山縣に境し、南は峻嶺相重つて和歌山縣の諸嶽山脈と交叉し、西は金剛、葛城、信貴、生駒の連山起伏して大阪府と境を劃してゐる。

山嶽及河川 山嶽の大なるものに七面山、佛經嶽、弥山、釋迦ヶ岳、大台ヶ原山、國見岳等があり何れも南方に巔峯として屹立してゐる。河川は飛鳥、富雄、龍田、葛城其他数多の小川が合流して大和川となり西流して大阪府に入り、宇陀川は源を宇陀郡に發し三重縣を経て名張川となり再び遙かに北部匯りて京都府に赴き、吉野川はその源を大台ヶ原に發し中央を貫流して紀ノ川となり南海に入り、又十津川、北山川は共に吉野郡の山間に發し和歌山縣を経て南海に注いでゐる。

面積 本縣は東西64.13料強、南北102.22料弱で面積は3,688.6方料である。之を郡市別に見て最も大なるは吉野郡の2,262.7料で總

概要

面積の六割二厘を占め、宇陀、山邊、生駒、添上、磯城、北葛城、宇智、高市、南葛城の各郡順次之に亘り奈良市の29.8方料は最小である。

地質

本縣の地質は錯雑混入してゐるが之を分類すれば南半は大部分古生層にして中生層は其の南端の一部を占め北半は火成岩より成つてゐる。地質には花崗岩、安山岩があり、水成岩層中には片麻岩の地が多く之に亘り第三紀層が多く、其他の地層は此等の間に介在して小面積を占むるのみである。

民業及産物

民業は農業を主とし山地に於ては林業を兼ね、又市街地には専ら商工業に従事し養蚕、製茶を業とするもの又尠くない。物産の重なるものに米、売茶、綿織に紡績、杉用材、酒類、麥、金巾、繭、鈕、松用材、メリヤス生地、蚊帳、靴下、シヤツ及ツボン下、木炭、西瓜、蚕糸類、綾綿布、墨、蓄音機レコード、凍豆腐、屠肉(牛) 醬油、探肉(鶏)モミ、シラベ、トシヒ用材等なり

氣象

氣壓

昭和十六年の平均気候は76.1.5粒で前年に比べて5.0粒高くその最高は二月の76.6.3粒、最低は七月の75.5.0粒である。

氣温

昭和十六年中の平均気温は攝氏14.5度で平年より0.1高く年内を通じ気温の最高極は七月の36.5度、最低極は四月の14.4度である。

降水量

昭和十六年に於ける降水量は1,581.1粒で平年の1,340.1粒に比較すれば241.0粒多く、1ヶ月の平均降水量は1,317粒で降水量の最も多い月は六月の3,186粒、最小は十月の576粒である。

戸口

人口動態

現住人口

警察戸口調査規程に依る昭和十六年末の戸口は戸数126,674戸、人口621,500人内男301,466人女320,034人で女100人につき男142人に該りノ戸當の平均人員は4.91人である。前年末に比し人口3,455人を増し一方料當の人口は168人となつてゐる。

現在人口

昭和十五年国勢調査の結果による現在人口は620,509人で内男305,681人女314,828人女100人につき男97.1人で昭和五年国勢調査に比べて総數38人増内男330人を減じ女368人を増加し、一方料當人口は168人である。

一方料當人口

概要

			國勢調査 現在人口	人口調査=依ル 現住人口				國勢調査 現在人口	人口調査=依ル 現住人口
漆 上 郡 郡 郡 郡 郡	上 郡 郡 郡 郡	郡 郡 郡 郡 郡	200	199	北 南 郡 郡 郡 市	着 葛 智 野 良 茶	城 郡 郡 郡 市	752	759
			452	451				462	501
			237	218				299	291
			514	521				43	44
			113	112				1,878	1,542
570	586								

人口動態

- 婚 姻 昭和16年の婚姻は8,039件で前年に比し1,725件多く、人口千に対する婚姻率は1,293件である。
- 離 婚 離婚は429件で前年に比し1,2件を減じその人口千に対する割合は69件である。
- 出 生 出生総数は1,7270人にして前年に比し749人(4分7厘)を増し人口千に対する出生率は27.78である。
- 死 産 死産は総数87.6にして前年に比し5.0人(5分6厘)を減少し人口千に対する死産率は1.41にして前年に比し0.08減少してゐる。
- 死 亡 死亡者は総数1,0789人にして前年に比し1,76人増加し人口千に対する死亡率は1,735前年に比し0.25増加してゐる。
- 自然増加 昭和十六年に於ける本縣人口の自然増加は6,481人内人口千に対する増加率は1,105より前年に比べて573人(8分8厘)増加せり。

農 業

耕地面積 昭和十六年末に於ける耕地面積は40,482町2段内田30,787町2段(7割6分)畑9,685町(2割3分8厘)で耕地は総面積の1割1分に該つてゐる。

最近五年間の趨勢を見ると、次の通りである。

		総 数	田	畑
昭和	年 末	町	町	町
	12	44,654.5	33,066.7	11,587.8
	13	44,305.3	32,825.5	11,479.8
	14	44,222.9	32,753.0	11,469.0
	15	44,085.5	32,650.1	11,435.4
16	40,482.2	30,792.2	9,685.0	

同年中の耕地面積の移動は拡張121町4段内田35町8段(2割9分4厘)

概要

畑85町6段(9割05厘)その潰廢は324町2段内田152町9段(4割7分1厘)畑191町3段(5割2分8厘)である。

昭和十六年末に於ける農家戸数は61,886戸にして総戸数の4割8分8厘に当り前年に比して2,362戸を(3分9厘)増加してゐる。農業を専業とせるものは27712戸(4割4分7厘)兼業とせるものは34,174戸(6割5分8厘)で更に之を自作、小作別に観ると自作22,021戸(3割5分5厘)小作15,637戸(2割5分2厘)自作兼小作24,228戸(3割9分1厘)となつてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通りである。

	總數	専業	兼業	自作	小作	自作兼小作
昭和 12	62,484	41,364	21,120	22,203	16,642	23,639
13	61,201	36,992	24,209	21,699	16,267	23,235
14	60,623	36,917	23,706	21,348	15,972	23,303
15	59,524	32,394	23,130	20,993	15,477	23,054
16	61,886	27,712	34,174	22,021	15,637	24,228

耕地所有農家戸數 昭和十六年末に於ける耕地所有農家戸數は61,731戸で前年に比して7,950戸(1割4分)を増加してゐる。耕地五段歩未満の所有者は總數の4割3分9厘を占め、五段以上一町歩未満は3割6分3厘で一町歩以上は1割9分7厘に過ぎない。

最近五ヶ年間に於ける趨勢を觀ると次の通である。

	總數	五未段	五以段上	一以町上	三以町上	五以町上	十以町上	五以十町上
昭和 12	56,009	31,603	15,068	7,800	1,089	343	104	2
13	54,545	29,945	15,066	8,006	1,079	345	102	2
14	54,666	29,735	15,242	8,212	1,057	323	94	3
15	53,781	28,935	15,388	8,161	941	279	74	3
16	61,731	27,114	22,430	12,150	30	6	1	1

金融

會社 本縣内に本社又は本店を有する昭和十六年末の会社は410。その拂込

概要

資金及出資額は総額が4279千円である。

会社の組織より観ると株式会社205、合資会社107、合名会社67、有限31で拂込資本金又は出資額は株式52,212千圓、合資3,687千圓、合名222千圓、有限1351千圓でその平均は254千圓、合資32千圓、合名33千圓、有限43千圓である。

總會社を業態別に區別すると商業の183最も多く総数の5割7分3厘を占め、工業の148、運輸業の65、農業の12、鉱業の2となつてゐる。

郵便貯金 昭和十六年度末現在に於ける郵便貯金預入人員は766,868人、その金額は98,379,583円で前年より79,389人、2,778,631円多く、預入人員一人当金額は128円55銭にして、前年度末に比し一人当18円27銭を増してゐる。

交通及災害

道路 昭和十六年度末に於ける道路数は35,043米、主用延長13931、312米、道路延長13899,804、陸道延長458米、橋梁延長29,724米、渡舟5場延長1326米となつてゐる。

水災及暴風雨被害 昭和十六年の水災及暴風雨被害損失見積価格は174,812,300円である。特に被害の多かつたのは大和川流域に於ける被害損失見積価格が378,690円にして総見積価格の5割06厘を占め、淀川流域は171,259円2割2分8厘、吉野川流域は99,974円1割3分4厘、北山川流域は69,1776円9分3厘、十津川流域は28,424円3分8厘で総見積価格前年に比し594,999円4割4分3厘減少してゐる。

社 會

慈善賑恤資金 昭和十六年度末の慈善賑恤資金歳入出内歳入18,609円、歳出18,566円にしてその主なるものは補助金、救護院費等にして其の金額18,277円、總支出の9割8分3厘を占めてゐる。

日本赤十字社及愛國婦人會 昭和十六年末に於ける赤十字社員は39,693人で中俣有功章53人、特別922人、修身正18,653人、正社員20,065人となつてゐる。

教 育

概要

学齡児童

昭和十六年三月一日現在に於ける学齡児童総数は98412人で男は50,018人、女は48,394人中就学始期既達者は84,475人(男42,923人、女41,552人)で前年度に比べ総数に於て3,349人減少してゐる。学齡児童の中尋常小学校の在学者及卒業者は98082人で不
就学児童は330人ありその中就学猶豫は248人、就学免除は82人と
なつてゐる。就学始期既達者100人中の就学歩合は99.68人にして前
前年度に比し0.02人を減少してゐる。

小学校

昭和十六年三月一日現在に於ける小学校は353校ありその内訳は尋
常小学校147、尋常高等小学校は200、高等小学校3で前年度に比し
総数に於て33校増加してゐる。

学級は尋常405、尋常高等2044、高等12、合計2461で前年度
に比し32を増してゐる。児童は102830人内尋常科は84445人
高等科17554人で前年度より尋常科、高等科共に少く合計に於て5
54人(5厘)を減じてゐる。

入学者は23319人内尋常科13956人、高等科9217人で前年度
より454人(1分4厘)少く卒業者は尋常科13607人、高等科83
53人、合計21960人で前年度より67人(3厘)を減じてゐる。

師範学校

縣立二校ありその学級19、教員は兼務者を除き47人で内有資格者
43人無資格者4人となつてゐる。生徒は585人内本科551人、専攻
科34人にして前年度に比し28人(5分)増加してゐる。

青年学校教員養成所

縣立農事試験場に併置し学級2、教員5人、内専務者5人で
生徒は35人あり、入学者20人卒業生15人なり。

中学校

縣立5校、私立4校あり学級は合計131で教員の総数は他よりの兼
務者を除き231人一校当の教員は25.6人となつてゐる。教員の内有資
格者は177人で総数の13割6分6厘を占め生徒は総数6307人で前年
より、535人増して一校当70.1人教員一人当29人となつてゐる。

高等女学校

縣立6校、町立1校、私立4校合計11校あり学級は128教員は
本務者212人で内有資格者194人(9割6分5厘)となつてゐる。
生徒の総数は6398人で逐年増加し前年度より519人(8分)多くな
つてゐる。

実業学校

(甲)校数は17でその内訳は農業5、工業2、商業2、職業学校8と
なつてゐる。学級は合計105内農業27、工業22、商業23、職業3
3で、前年度より4学級を増し、教員212人内農業56人、工業44人
商業46人、職業66人で前年度より11人増し、生徒は総数4788人
で内農業1218人、工業715人、商業1153人、職業1702人前
年度より210人増してゐる。

実業学校

(乙)職業2校あり、学級は8にして兼務者を除く教員は9人、生徒2
79人となつてゐる。

概要

青年学校 校数302学級611で教員は本務者401人兼務者1060人となつてゐる。指導員は614人内男595人女19人で生徒の総数は16763人内男13010人 女3753人で一校当りの生徒数は56人となつてゐる。

盲啞学校 1校あり17学級で教員18人、生徒は125人で内学齡児童は73人(5割8分)を占めてゐる。

幼稚園 園数は16で逐年その数を増し組数60保母74人 幼児1,975人 入園児2078人 保育満期者1628人で前年度より組数3 幼児220人 保育満期者384人を各減じ入園児に於て380人を増してゐる。

圖書館 図書敍令による圖書館は館数82で藏書冊数は292015冊、開館延日数21723日で閲覧人員は241231人となり前年度に比べて圖書冊数10432冊閲覧人員7208人を減じてゐる。一館当り一日の閲覧人員は11人余りとなつてゐる。

公学費 昭和十六年度の公学費歳入総額は2073172円、内縣費1744121円、市費28449円、町村費300602円で前年度より259594円(1割1分)を減少してゐる。歳出総額は6180218円内縣費4395198円、市費268204円、町村費1516816円で前年度より355646円(6分1厘)を増加してゐる。

公学資産 昭和十六年度末に於ける公学資産の総見積價額は4851239円で内前年度より11085029円(6割9分5厘)少なくなつてゐる。建物の價額は2870551円で総價額の5割9分2厘を占め在地價額は墾地附屬地を合せて1120409円(2割3分) 圖書機械、標本器具價額は合せて860279円(1割7分7厘)となつてゐる。

社 寺

神 社 昭和十六年末の神社は1519でその内訳は官幣社10、縣社28、郷社27、村社1047無格社406、招魂社1となつてゐる。この中神饌幣帛料供進指定神社は425となつてゐる。

神 職 昭和十六年末に於ける神職は総数330人内官幣社66人 縣社55人、郷社39人、村社168人無格社2人で前年末に比べて、1人の減少を来し神社一につき神職の数は官幣社66人、縣社19人、郷社14人、村社15人となつてゐる。

寺 院 昭和十六年末の寺院は1798で 眞宗の619ヶ寺が最も多く、眞言宗の343ヶ寺之に並び、浄土宗の334ヶ寺其他の各宗の寺院は合せて502ヶ寺に過ぎない。

警 察

警察職員 警察部及縣下ノ8警察署の職員総数は808人で内683人は警察官にして職員総数の8割4分5厘に該つてゐる。

定員巡査1人に對する人口は1.015人で更に之を警察署に属する警部補、巡査の総数536に對比すれば1.159人に該つてゐる。

交通事故 昭和十六年に於ける自動車、自動自転車、自転車、電車、汽車、人力車、荷車等に依る交通事故の件数は65件なり。その最も多きは電車の32件で総数の4割9分2厘を占め、自動車の16件、汽車の9件等順次之に垂ぎ、死者数は33人、傷者数は81人で歩行者の被害最も多く33件で死傷合せて114人に及んでゐる。

火災及警防團 昭和十六年に於ける家屋火災の度数は69件で失火は58件に及び総数の8割4分を占め、之を住家非住家別に觀ると住家の内全焼棟数は92、半焼棟数は6で、その焼失建坪は4384坪内全焼4114坪、半焼270坪なり。非住家は全焼棟数は30、半焼棟数は11となつてゐる。

火災に依る損害見積總額は176238円にして前年より335303円少く火災度數ノ回に付2554円の割合である。

山林原野の火災度数は27件あり前年に比し20件の減少を示しその焼失坪数は269890坪で損失見積總額は23344円となつてゐる。

警防團は昭和十六年末に於て警防團數は150あり、その組員の總数は27872人で1年間の經費は262469円となつてゐる。ガソリン唧筒は自動車25で、その他のものは311あり。水管車205、腕用唧筒362となつてゐる。

死 昭和十六年中の要死者の總数は456人で前年より181人多く、之を種類別に觀ると自殺130人、災害其他326人にして自殺は總数の2割8分3厘に該る。自殺者の130人を因由別に觀るとその主なるものは病苦に依る37人(2割8分2厘)精神錯乱して226人(2割)其の主なるものである。

精神病患者 昭和十六年末に於ける精神病患者は1321人で前年より比し54人多く總数の中1110人(8割4分)は收容又は監置を要せないのである。

貸座敷 昭和十六年末の貸座敷數は23、娼妓は534人でその1戸当り7人となつてゐる。同年中の遊興人員は349702人、その消費金額は1689513円で前年に比して前者69133人(1割6分5厘)少く後者に於ては47411円(2分)を減少を示してゐる。

犯罪 昭和十六年中に有ける犯罪の発生件数は4600件にして前年に比し3442件(2割4分7厘)を減少してゐる。犯罪中最も多きものは諸法令違反は2654件、強竊盜の罪910件で詐欺及恐喝の罪289件業務

概要

上横領の罪ノ52件等はその発生の多いもので之等を合して8割7分8厘他の犯罪は併せて(ノ割2分2厘)に過ぎない。

縣外発生事件を含む検挙件数は4538件で前年より3800件(8割3分7厘)を減少してゐる。

衛生

医 師 昭和十六年末の医師総数は325人。その免許資格別を觀ると官公私立専門学校卒業ノ91人(5割8分7厘)大学卒業88人(2割7分)試験及第45人(ノ割3分7厘)従來開業ノ人(3厘)限地開業ノ人(3厘)となつてゐる。

医師ノ人に対する人口の割合は19ノ2人である。

齒科医師 昭和十六年末の齒科医師総数は185人、前年に比し13人増してゐる。之を資格別に觀れば指定学校の卒業者はノ20人で總数の6割4分8厘に該り、試験及第は65人(3割5分ノ厘)となつてゐる。

藥劑師 昭和十六年現在薬剤師総数は314人で前年より8人を増したのみである。官公私立指定薬学専門学校卒業253人にして總数の8割0分5厘)に當り試験及第者はノ人となつてゐる。

産 婆 昭和十六年末の産婆は732人にして前年末よりノ7人多い。

傳染病 昭和十六年の法定傳染病患者は腸チブス347人、赤痢156人、チフテリアノ68人、猩紅熱35人、パラチブス32人、流行性腦脊髄膜炎7人、痘瘡2人、合計747人に及び前年に比して41人(5分2厘)を減少してゐる。

財 政

縣 費 昭和十六年度に於ける縣歳入額は14709,347円で内經常部は17396026円、臨時部は7313321円となり、前年度に比べてノ7.6ノ5円(ノ厘ノ毫)を増してゐる。

税収入は4,931,903円で歳入總額の3割3分5厘に該り、その主なるものは國庫補助金の3460,749円(2割3分5厘)、國庫下渡金ノ462,448円(9分9厘)縣債のノ437400(9分8厘)等である。

歳出は總額ノ3,251,131円、内經常費5889,644円、臨時部7361,487円で前年度よりノ440601円(9分8厘)少く、その主なるものは国民学校職員費2096ノ78円(ノ割5分8厘)縣債費15ノ7962円(ノ割1分4厘)土木費ノ410,612円(ノ割6厘)等である。

市町村費 昭和十六年度に於ける市町村歳入額は11771477円にして歳入の内税収入5294224円で総額の4割5分を占め前年度繰越金1741995円(1割4分8厘)国庫補助補給交付金1026908円(8分7厘)等その主なるものである。

歳出総額は10145299円にして内教育費の2892481円(2割8分5厘)役所、役場費2235691円(2割2分)土木費896080円(8分8厘)等其の主なるものである。

諸税負担 昭和十六年に於ける縣民負擔の租税は総額18,203,953円で前年度より4,658,090円(4割3分7厘)を増してゐる。租税の内訳は直接國税17977825円、縣税4931,904円、市町村税5294,224円で、之を現在戸口に対比すると、一戸当りは國税62円98銭、縣税38円93銭、市町村税41円79銭合計143円70銭で人口一人当りは総額29円29銭となり一人当りとして前年度より4円50銭を増してゐる。

官 公 吏

官 公 吏 昭和十六年末に於ける縣職員の数数は1237人内(兼務者38人)(学校職員並神職を除く)その俸給年額は632円55銭(兼務者を除く一人当り641円75銭である。

昭和16年末現在の市町村制に依る市町村吏員の数数は4903人で報酬俸給年額892537円で内名誉職は3430人である